

〈原 著〉 第51回 日本赤十字社医学会総会 優秀演題

手洗い教室（出前授業）開催に向けて歩んだ軌跡

高槻赤十字病院 医療社会事業部¹⁾ 看護部²⁾

濱田 健司¹⁾ 吉田 篤美¹⁾ 松下 めぐみ²⁾

Experiences setting up a hand-washing class at elementary school

Kenji HAMADA¹⁾, Atsumi YOSHIDA¹⁾, Megumi MATSUSHITA²⁾

Japan Red Cross Takatsuki Hospital

Key Words：感染予防、教育委員会、小学生

【目 的】

当院は、地域完結型の医療機関として地域と共に歩み、また、日本赤十字の一員として、地域に根差して活動中である。

既に、厚生労働省も医療に資源を費やすのではなく、予防医療に重きを置き進んでいる。当院も医療機関としての使命を果たしながら地域の予防医療に貢献する為、今回、地域の小学校で感染予防の効果が絶大と言われている「手洗い」について出前授業を実施する事となり、開催に至るまでの過程を報告する。

【対 象】

小学校一年生を対象とした。理由は、教育委員会と相談し、幼いうちから手を洗うことを生活習慣として身につけてもらうために選んだ。

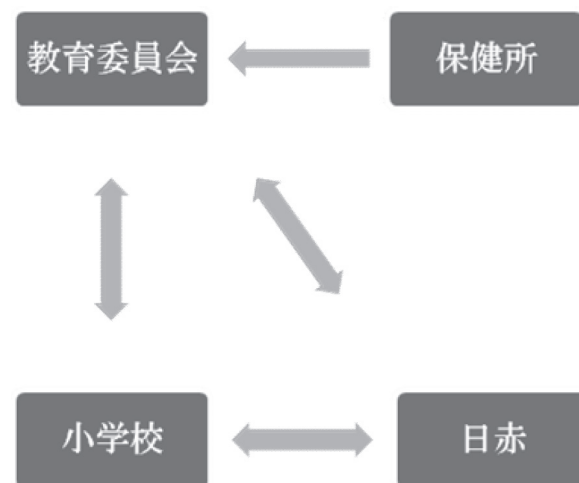
【方 法】

初めての案件で何からどう手掛ければよいのか分からず公衆衛生である事から保健所に相談、教育委員会に口添えを頂き、その後は教育委員会と調整し進めていった。教育委員会に企画の説明後、内容の変更や調整を幾度と繰り返し、校長会でのプレゼンテーションを行い承認され、教育委員会を窓口の実

施希望調査を行った。訪問日については、当院が希望された各小学校と連絡調整を行決定した。

【結 果】

当初は、周辺の小学校を対象に企画したが、教育委員会より個別でなく、地域全ての小学校を対象にすることと指示され、全ての小学校を対象にする運びとなった。



【結 論】

これまで医療機関とは幾度となく連携を重ねてきたが、行政との連携は初めてで組織の違いや性質の違いで互いの立場を理解する事から始まり、歩み寄ることの重要性を学んだ。現在、地域のコミュニティーセンターと連携を図り、図書館との連携に向けて活動中である。

